

2022年度

自 2022年4月1日
至 2023年3月31日

事業報告書

I 2022年度 事業報告書

2020年1月に新型コロナウイルスが確認されてから3年が経過し、これまで強いられてきた社会生活や経済活動の制限は徐々に緩和され、日常を取り戻しつつあります。

このような中、国内生乳需給は需要低迷と生乳生産拡大に伴い脱脂粉乳在庫は過去最高に積み上がり、非需要期には処理不可能乳の発生が懸念されましたが、脱脂粉乳の在庫については、生産者による生産抑制をはじめ、国などによる各種対策が奏功し徐々に減少しつつあります。

また、懸念された処理不可能乳についても酪農・乳業関係者が一丸となって対応したことにより、完全処理を達成し乗りきることができました。

一方、ロシアによるウクライナ侵攻により、世界的な食糧・資材価格の高騰と急速な円安に見舞われ、国内の酪農経営における生乳生産コストは急激な上昇が進んでおります。加えて、本道酪農の生乳生産については、社会全体を取り巻く状況の厳しさや閉塞感による消費への影響等により更に抑制しなければならないなど今後の推移に大きな不安を抱かざるを得ない状況となっております。

本会においても、新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、当初、計画していた研修会、会議等を中止するなど、やむをえず業務を制約する事態となりましたが、本会の使命である本道酪農・乳業の健全な発展に資するため、牛群検定並びに生乳検査に係る基本事業を滞りなく実施することができました。

牛群検定事業については、乳牛検定組合数98組合、農家数3,601戸（生乳出荷農家に対する普及率は75.2%）、検定頭数約34万5千頭を対象に実施しました。検定業務は、検定組合の安定的な運営を支えるため、各種補助事業の推進を図るとともに、顕在化している検定員不足の課題に対応するべく、AZ法を始めとした簡易化手法の検討と普及に取り組みました。また、電算業務として、マスター及び検定記録を迅速に処理し各種情報の基となるデータを集積したほか、検定組合及び本会の業務効率化や検定情報利用者の利便性向上を目的に牛群検定Webシステム改修等の開発に取り組みました。調査研究業務では、泌乳前期健全性指標と生涯生産性等の関連について基

礎的な分析に着手しました。

後代検定事業の推進業務については、関係団体との連携の下で調整交配の円滑な実施と娘牛保留等に努め、能力の高い国産種雄牛の作出に貢献しました。また、北海道乳牛改良委員会に参画し、乳牛改良の効率的な推進体制の構築に向けた提言を行いました。

生乳検査事業については、合乳検査、個乳検査、個体乳検査、付帯検査及び申請検査について、公正かつ正確な検査を実施しました。指定生乳生産者団体と乳業者との取引等に関わる合乳検査においては、405万トン（前年度対比97.7%）を対象に、成分、体細胞数、細菌数等の検査を実施しました。

検査業務の基本となる検査精度については、試験所及び校正機関の能力に関する公定法分析についてのISO/IEC17025試験所認定機関として国際規格に基づき適正に管理しました。

乳質改善支援業務については、高品質で安全性の高い生乳の継続的な生産・供給のため、北海道乳質改善協議会と連携を密にし、生産並びに輸送段階の衛生管理、乳房炎防除、抗菌性物質残留の防止等に取り組むほか、異常風味に関する情報提供に協力しました。

調査試験業務については、生乳の汚染原因調査で用いられる低温細菌数の簡易検査法である予備培養法について、判定基準並びに活用方法に係る検討を行ったほか、異常風味判定に係る官能評価員の養成を目的としたトレーニングを実施しました。

また、道が進める「道産食品独自認証制度」におけるナチュラルチーズの認証機関として、本制度の円滑な推進に努めました。

組織運営においては、公益法人の財務規律である「収支相償」を前年度に引き続き達成できることとなりました。

また、短期的な財務状況を見通した資産取得資金の積み立てを実施したほか、本所並びに事業所において効率的な体制となるよう、本所においては情報企画室を総務部に統合し、道央事業所体制への準備を行いました。

システム管理については、業務システム基盤の運用を継続し、動作環境、ネットワー

ク機器の監視を行うとともに、基幹システムの移設（2024年度予定）に向けた準備を行いました。

また、本会が提供する加工情報の周知と活用促進への取り組みとして、機関誌並びにホームページ等による情報の発信を行いました。

第1 事業の実施状況

1 乳牛検定関係

(1) 牛群検定事業

ア 牛群検定の実施

- 乳用雌牛群の改良と乳用種雄牛の選抜を促進するため、北海道の強い農業づくり事業（産地競争力の強化）牛群検定高度化推進事業実施要領に基づき、98検定組合等において、牛群検定、後代検定を実施した。
- 年度末における検定農家数は3,601戸（29戸加入、216戸除籍と前年度より187戸減少）、検定牛頭数は345,186頭（前年度より9,788頭減少）となり、事業量に応じて検定組合に補助金を交付した。

事業の内容及び実績

（単位：円）

事業主体	区 分		内 容	事 業 費	内 訳	
					道費補助金	そ の 他
乳牛検定組合等	検 定	能 力 検 定	検定員立会謝金	184,615,015	42,288,162	352,803,972
			生乳検査	193,151,464		
			小 計	377,766,479		
	推 進	後 代 検 定 発 啓	推 進 会 議	2,869,627		
			調 査 ・ 指 導	4,587,146		
			資 料 作 成	253,750		
			調 査 取 り ま と め	8,736,132		
			現 地 指 導	879,000		
		小 計	17,325,655			
本 会	検 定 指 導	検 定 員 研 修	3,116,089	418,838	4,499,271	
		現 地 指 導	1,802,020			
		小 計	4,918,109			
合 計			400,010,243	42,707,000	357,303,243	

イ 牛群検定の推進

- 検定未加入農家を対象にした試行検定を推進したほか、検定手法の簡易化に係る検討、及び牛群検定Webシステムの活用方法の周知等を行い、検定離脱防止と加入促進に努めた。

- AZ法は28戸（0.8%）、AT法は3,258戸（90.5%）、自動検定（搾乳ロボット検定）は、367戸（10.2%）となった。
- 大規模酪農検定システムは、15機種に対応し、34組合、119戸（前年度より19戸増）が本システムを利用して検定を実施した。
- 「乳検PAGs検査オプション」を加入メリットとして周知し、3月検定において894戸（検査受託地区の33.3%）、94,265検体の利用実績となった。

ウ 年間検定成績

- 2022年1～12月の集計では、平均実頭数93.2頭（前年より2.7頭増）、経産牛1頭当たり乳量10,025kg（前年より92kg増）、1日当たり乳量31.6kg（前年より0.4kg増）、分娩間隔420日（前年より2日短縮）となった。

エ 検定情報の利活用の指導・支援

- 検定事業を円滑に推進するため、各地区、組合代表者による協議会・会議等を実施した。
 - ① 検定員養成研修会
 - ・開催日 2022年7月28日～7月29日
 - ・開催地 本別町
 - ・出席者 36名
 - ② 乳牛検定組合連合会会長・事務局長会議
 - ・開催日 2022年9月28日
 - ・開催地 札幌市
 - ・出席者 38名
 - ③ 地区別検定組合長協議会
 - ・開催期間 2022年10月13日～10月27日
 - ・開催地 10地区
 - ・出席者 延べ251名

④ 地区別検定員研修会

- ・開催期間 2022年11月24日～12月2日
- ・開催地 9地区
- ・出席者 延べ309名

⑤ 検定員中央研修会（乳用牛群検定全国協議会との共催）

- ・開催期間 2023年2月28日
- ・開催地 札幌市
- ・受講者 242名

⑥ 検定情報活用研修会

- ・開催期間 2023年3月1日
- ・開催地 札幌市
- ・受講者 176名

- 2022年度優秀検定員として、本会が推薦した次の11名が乳用牛群検定全国協議会から表彰された。

氏名	所属	氏名	所属
高橋 渡	ふらの乳牛検定組合	金 大介	道東あさひ農業協同組合
斉藤 茂則	北檜山町乳牛検定組合	井上 静江	計根別乳牛検定組合
坂本 友太	有限責任事業組合帯広畜産センター	東 寿雄	置戸町乳牛検定組合
佐藤 真治	忠類農業協同組合	宮原 利幸	えんゆう乳牛検定組合
小池 誠二	音別町乳牛検定組合	雨堤 沙織	宗谷南乳牛検定組合
深田恵利子	厚岸町乳牛検定組合		

(2) 後代検定事業の推進業務

ア 後代検定娘牛に係るマスタ登録・生産娘牛・受胎状況

- （一社）北海道家畜人工授精師協会等と連携を図り事業を推進した。

後検年度	調整交配頭数	受胎頭数	生産娘牛頭数	マスター登録頭数
2019 後 検	34,091	16,158	6,155	5,159
2020 後 検	33,376	16,074	6,007	4,807
2021 後 検	31,787	15,741	(5,112)	(2,216)

注) カッコ内は経過中の頭数

イ 2022後検の調整交配

- 2022後検では、ゲノミック評価情報等による予備選抜を経た候補種雄牛99頭の調整交配が実施された。本会は、地区連合会との協議に基づき調整交配精液の配分案を作成した。
- 当初計画に追加希望1,998頭（16組合）が上乘せされた。後期の候補種雄牛頭数が50頭から49頭へ変更され計画頭数は28,206頭となった。

前 期		後 期		合 計	
交配期間：2022年11月～2023年2月		交配期間：2023年4月～2023年7月			
候補種雄牛頭数	調整交配計画頭数	候補種雄牛頭数	調整交配計画頭数	候補種雄牛頭数	調整交配計画頭数
50	14,139	49	14,067	99	28,206

ウ 乳用種雄牛後代検定受託事業

- 令和4年度乳用種雄牛後代検定事業の円滑な推進を目的に（一社）家畜改良事業団との委託契約に基づき以下の業務を実施した。
 - 検定組合等には、（一社）家畜改良事業団から本会を通じて1,815万円の助成金等が交付された。
 - ・ 産子事故調査（検定組合・検定農家） 300,000円……(a)
対象6件（調査謝金2万円・協力農家謝金3万円）
 - ・ 調整交配促進費（検定組合） 7,870,500円……(b)
2021後検受胎頭数 500円/頭： 15,741頭
 - ・ 調整交配精液の保管配送費（AIサブ） 9,977,660円……(c)
2021後検後期分 209円/本： 25,746本
2022後検前期分 209円/本： 21,994本
- 合 計 (a+b+c) 18,148,160円

エ 後代検定事業の理解醸成に係る取り組み

- 北海道乳牛改良委員会に参画し、今後の改良の方向性を協議するとともに、組合長協議会等で取り組み内容を報告し、意見交換を行った。

(3) 酪農経営支援総合対策事業(乳用牛改良増殖推進事業)飼養管理技術の向上対策

○ 検定組合等が実施した乳用牛の飼養管理技術に係る指導及びそれらに必要な分析・検査等の取り組みに対して、(一社)家畜改良事業団から検定組合等に1億551万円が交付された。

○ 本会は、(一社)家畜改良事業団との委託契約に基づき、事業推進に係る取りまとめ事務等を実施した。

・乳用牛の飼養管理技術に係る指導及びそれらに必要な分析・検査

94組合(指導戸数延べ47,581戸) 105,512,401円……(a)

・委託事業実績

事務取りまとめ(道内参加団体の書類等取りまとめ)

本 会 1,674,690円……(b)

合 計 (a + b) 107,187,091円

(4) 酪農経営支援総合対策事業(乳用牛改良増殖推進事業)遺伝的能力向上対策

○ (一社)家畜改良事業団との委託契約に基づき、検定組合等において後検娘牛とその同世代牛11,862頭のSNP検査用サンプルの採取を実施し、本会はゲノミック評価の利活用を図るための勉強会を各地で開催した。

○ (一社)家畜改良事業団から本会を通じ、検定組合等に2,957万円を交付した。

・ゲノミック評価の実施のために必要なサンプル収集及び検査

77組合(11,862検体) 28,468,800円

サンプル採取機器 1,098,856円

本会取りまとめ賃金 539,583円

小 計 30,107,239円……(a)

・乳用牛のゲノミック評価の利活用を図るための勉強会の開催

10回 延べ193名 204,984円……(b)

合 計 (a + b) 30,312,223円

(5) 令和4年度乳用牛改良対策事業（牛群検定の試行）

- 牛群検定の普及拡大を図るため、検定未加入農家を対象にした試行検定を22組合、33戸で実施し、（一社）家畜改良事業団から本会を通じて、検定組合に助成金213万円を交付した。
- 本事業では、平成11年度から令和4年度までに合計1,081戸が実施し、牛群検定の普及定着に効果をあげている。

(6) 電子計算業務

ア マスター登録業務

- 検定農家及び検定牛（未經産含む）のマスター登録について、27戸159,974頭の追加処理、及び164戸159,470頭の除籍処理を行った。

イ 検定成績の計算処理業務

- 検定記録の年度処理について、676万8千件（月平均56万4千件、前年度比1万9千件減）の報告があり、これに対する修正を5万1千件（報告件数の0.8%、前年度からの変動なし）、照会を3万6千件（前年比1千件増）処理した。
- 検定成績のフィードバック状況は、検定立会から検定成績表発行までの平均日数で3.57日（前年度から0.05日延長）であった。
- 検定日速報及び乳成分速報をインターネットFAXで提供するサービスを36組合1,107戸の検定農家が利用した。
- 牛群検定Webシステムの帳票メール通知機能を利用して、検定農家208戸及び検定組合33組合が帳票を電子データで受信した。

ウ 牛群検定システム、基幹システム等の開発・補完・運用

- 検定組合及び本会の業務効率化、牛群検定Webシステム等利用者の利便性向上のため、各種システムの開発を行った。

2022年度 開発業務

対 象	主な改修内容
牛群検定Webシステム	<ul style="list-style-type: none"> Web照会機能の補完 Web訂正依頼の動作改修
牛群検定WebシステムDL	<ul style="list-style-type: none"> 利便性及び視認性向上のための諸機能/画面の改修 DL内のAI後日数表示ルール統一
検定記録送受信ソフト	<ul style="list-style-type: none"> 牛群検定Webシステムへのリンク機能の追加 AZ法処理機能の利便性拡張
検定情報収集端末（タブレット）	<ul style="list-style-type: none"> 複数バルクからのタイマーデータ取得機能の追加 検定日チェック機能等の諸機能の改善
内部ツール及び帳票	<ul style="list-style-type: none"> 加修除システム、月次処理システムの刷新 発送業務効率化のための帳票出力方法変更
その他	<ul style="list-style-type: none"> PAGs検査用ツールの機能改善

- 検定情報収集端末（タブレット）について、パナソニック社製のFZ-L1が終売となったことから、キーエンス社製のDX-A600を後継機種に選定し、2022年10月より受付・納入を開始した。
- 前年度に運用を開始した牛群検定Webシステムによる検定記録の照会・回答機能について、96組合が本機能に移行した。
- 照会業務の効率化のため、個体識別情報を利用した経産牛の自動除籍の仕組みを開発し、一部組合で試験実施を開始した。
- 2024年度のシステム移行に備えて、Windows Server 2022上でのシステムの動作を検証した。

エ 牛群検定データを用いた乳牛改良等の調査研究と情報活用

- 乳用牛の泌乳前期健全性改善指標開発事業に参画し、乳中ケトン体（BHB）と生産形質、繁殖形質、生涯生産性関連形質との表型的・遺伝的関連を調査しその結果を学会で発表した。
- 畜産経営体生産性向上対策事業（ICT化等機械装置適合家畜生産推進事業）におけるロボット適合指数の開発に協力するため、自動検定等で収集したデータを乳用牛群検定全国協議会に提供した。
- 酪農における飼養管理改善対策事業において、飼料効率の推定に必要なとなる体重推定式の精度検証と再推定を行った。
- PAGs検査結果のPAGs値（S-N値）とその後の分娩状況を調査し、陽性と判定されてもその後注意が必要となるPAGs値の範囲を決定した。

- 研究機関と共同研究を実施し、学会での研究発表3題、共著論文1題に協力した。また、研究機関等からの要請に応じて牛群検定データの提供を行い、生涯生産性等の改善に必要となる研究の推進に協力した。

2 生乳検査事業関係

(1) 生乳検査事業

ア 合乳検査の実施

- 指定生乳生産者団体及び乳業者の申請により、成分・体細胞数検査17万4千検体及び細菌数検査7万3千検体の合乳検査を実施した。
- 検査対象乳量は、405万トン（前年度対比97.7%）であった。
- 脂肪率及び無脂乳固形分率は、それぞれ4.060%（前年度4.010%）、8.812%（同8.815%）であり、脂肪率が0.050ポイント向上し、無脂乳固形分率が0.003ポイント低下した。
- 衛生的乳質においては、細菌数1万/ml以下の比率は97.2%、体細胞数30万/ml以下の比率は98.5%と、引き続き高水準を維持した。
- 体細胞数20万/ml以下の比率は、1.1ポイント上昇し76.4%（前年度75.3%）であった。

イ 個乳検査の実施

- 検体数は、成分・体細胞数検査並びに細菌数検査ともに、14万1千検体であった。
- 検査対象乳量は、成分・体細胞数検査並びに細菌数検査ともに268万2千トン（前年度対比97.6%）であった。
- 個乳検査を受託している農協・団体数は74団体、酪農家戸数は、3,566戸であった。

ウ 個体乳検査の実施

- 乳牛検定組合等からの申請により、成分・体細胞数検査について228万9千検体（前年度対比97.7%）の検査を実施した。

- 個体乳検査を実施した組合数は76組合、農家数は2,686戸で、年度末における個体乳受託シェアは、検定農家数ベースで74.6%、頭数ベースでは67.2%であった。

エ 付帯検査及び検査資材の提供

- 生乳生産者団体等及び乳業者からの申請により実施した付帯検査の総件数は、55万5千検体、検査用資材の提供総数量は10万9千枚であった。
- 付帯検査で主要な割合を占めるバルク乳並びに個体乳の体細胞数検査は、47万9千検体（前年度対比90.0%）であった。
- 乳房炎起因菌同定検査は1万2千検体（前年度対比96.5%）であった。

オ 申請検査の実施

- 生乳生産者団体及び検定組合からの申請により実施したPAGs検査の総検体数は、143,489検体（前年度対比97.4%）であった。
- 生乳生産者団体からの申請により実施した出荷毎個乳検査の総検体数は、322,581検体（前年度対比95.2%）であった。
- 生乳生産者団体及び乳業者からの申請により実施した生乳分析装置の校正に係る検査は、12団体、延べ2,029検体であった。
- 地区連合会からの申請により実施したバルク乳中マイコプラズマ菌（属）検査の総検体数は、3,302検体（前年度対比94.2%）であった。

カ 生乳検査精度管理の充実強化

- （公財）日本乳業技術協会が認証する生乳検査精度管理認証施設として本会の内部精度管理の充実を図り、定められた作業標準等に基づき適正な検査を行うことで公平かつ正確な検査の実施に努めた。
- 乳成分測定機の精度管理を目的として実施している公定法分析について、ISO/IEC17025（試験所認定）認定機関として、国際規格に基づき適正に実施した。

- 生乳検査精度管理認証については2022年4月1日付で認証継続が認められ5期目（1期3年）に入った。

キ 外部精度管理への参加及び国内機関との連携

- （公財）日本乳業技術協会が実施する外部精度管理調査及びICARが実施する体細胞数測定機の国際技能試験に参加し、乳成分及び体細胞数測定機の精度確認を実施した。
- 乳成分測定機における精度管理の根幹となる公定法分析については、（公財）日本乳業技術協会と定期的なクロスチェックを実施し、国内の検査精度確保に協力するとともに、外部精度管理として国際的な精度管理機関（FAPAS）が実施する技能試験に参加した。
- 微生物試験に関しては、栄研化学㈱が実施する外部精度管理に参加した。
- 外部精度管理の結果については、いずれも良好な評価を得た。

(2) 乳質改善支援業務

ア 乳質改善への支援

- 乳質改善に係る技術普及の面では、北海道乳質改善協議会と連携し、生乳集荷業務新任担当者研修会、ミルカー管理技術指導者講習会の企画立案への協力並びに講師派遣を行うとともに、関係機関の主催する研修会にも講師を派遣し、良質乳生産技術の普及を図った。
- 地区乳改が主体となり個乳生菌数削減対策を目的に実施した生菌数検査は、帯広地区を除く7地区で、延べ14,843検体の検査を実施した。

イ 生乳検査機器等の精度チェックと校正指導

- 指定生乳生産者団体からの依頼を受け、年4回、農協等が所有する乳成分・体細胞数測定機及び細菌数測定法のクロスチェックを実施した。
- 乳業者が所有する乳成分測定機についても年6回、クロスチェックを実施した。
- いずれも基準内であり、良好に管理及び運用されていることを確認した。

ウ 生乳取扱者技術認定講習会

- 生乳取扱者の生乳等に関する専門知識及び生乳検査の技術水準の向上を図ることを目的として、生乳取扱者や畜産関係技術者等を対象に生乳取扱者技術認定講習会を開催した。
- 効果測定の結果に基づき、認定基準を満たした受講者に、北海道知事から認定証が交付された。
 - ・ 開催期間 オンライン講義：2022年9月27日～9月29日（3日間）
 効果測定（集合実施）：2022年10月6日（札幌市、釧路市）
 - ・ 開催地 Web開催
 - ・ 受講者数 63名（生産者団体、乳業者、集送乳業者の各担当者）
 - ・ 知事認定者 62名
 - ・ 運営委員会の開催 2回

エ 生乳の風味向上への取り組み

- 本道生乳の一層の風味向上に資するため、異常風味発生時の確認検査並びに現地調査に協力するとともに発生事例の蓄積を行った。
- 関係機関による異常風味発生防止を目的とした検討会や、大学が行う研究事業等に協力した。
- 関係機関並びに集荷担当者を対象とした講習会等では、訓練用サンプルを用いた模擬官能検査を実施し、官能検査レベル向上を図った。

(3) 安全・安心に向けた取り組み

ア 生乳のトレーサビリティ確保に向けた取り組み

- 指定生乳生産者団体が進める生乳トレーサビリティ確保への取り組みに、本会が窓口となり収集する生乳流通情報（出荷乳量、乳温）を提供することで協力した。

イ ポジティブリスト制度に係る検証

- 指定生乳生産者団体が推進するポジティブリスト制度に対応した農薬・動物用医薬品使用記録や搾乳・乳温等の生産履歴の記帳記録推進に協力した。
- 指定生乳生産者団体からの要請により、農薬・動物用医薬品の用法・用量の遵守、記帳等による安全確保の仕組みが良好に機能していることを確認する目的で、タンクローリー乳を対象として抗生物質カナマイシン1,945検体について残留確認検査を実施し、すべて陰性を確認した。
- (一社)Jミルクが全国的に実施したアフラトキシン検査のうち、北海道分の3検体について検査協力を行い、すべて陰性を確認した。

(4) 調査試験業務

ア 予備培養法に関する調査試験

- 生乳の汚染原因調査で用いられる低温細菌数の簡易検査法である予備培養法について、判定基準並びに活用方法に係る検討を行った。

イ 官能評価員の養成

- 生乳の格付け検査として重要な位置づけである風味検査について、分析型パネリストの養成を目的として、全事業所の検査員を対象に年間9回以上のトレーニングを実施した。
- 本会基準を満たした19名の検査員を分析型パネリストに認定した。

(5) 効率的な検査体制の構築

- 第6期業務運営に係る中期計画に則り、効率的な検査体制を実現するための具体的な対応として、根室事業所に配置するバクトスキャンについて、1台を処理能力が200検体/時間（現行機は150検体/時間）の機種に更新した。

(6) 道産食品独自認証制度（ナチュラルチーズ）認証の実施

- 道が進める「道産食品独自認証制度」のナチュラルチーズ認証機関として認証実務の取り進めを行った。なお、2022年度における対象品目は前年度同様、1事業者、2品目であった。
 - ・継続及び新規認証受付 2022年6月
 - ・書類審査 2023年3月
 - ・現地審査 2023年3月
 - ・専門家審査 2023年3月7日

3. 総務部関係

(1) 組織運営関係

ア 中期計画（2021年度～2023年度）の推進

- 第6期業務運営に係る中期計画の2年目となった本年度は、1年目の進捗状況を確認しながら、関係各部と連携し計画を推進した。

イ 財務の健全化

- 公益法人に課せられる財務規律の遵守に努めたほか、短期的な財務状況を見通した資産取得資金の積み立てを行い、将来の機器導入に向けた対応を行った。

ウ 業務効率化の推進

- 本所並びに事業所において効率的な体制となるよう、中期計画に沿った組織機能の見直しを実施し、本所においては情報企画室を総務部に統合し、道央事業所体制への準備を行ったほか、各部署と連携し日常業務での効率化を推進した。

(2) 基本事項への対応

- 理事の職務執行は、法令及び定款、理事会運営規程、事務局規程等に基づき行なわれたほか、コンプライアンス規程、リスク管理規程に基づき適切な対処と予防策の構築に向けた対応を行った。
- 公益法人としてのコンプライアンスの徹底を図るため、内部監査（年4回）を計画的に実施したほか、各種規程類の改正・整備を行った。
- 組織運営の基盤となる人材の育成について教育研修等を通じて取り組んだ。

(3) システム管理と情報対応

ア 業務システム基盤の運用と次期システムに向けた検討

- 基幹システム及びネットワークの動作監視、運用管理を継続して実施したほか、職員が利用するパソコンの導入・運用支援を行った。
- 基幹システムの移設（2024年度予定）に向けた調査を実施し、開発業者の選定と要件定義工程に着手した。

イ 提供する加工情報の周知と活用促進対策

- 機関誌「乳s」を年2回発行し、道内の全生乳生産農家並びに関係機関・団体等へそれぞれ7千部を配布した。
- ホームページにおいて各種成績等の情報掲載を随時更新した。

ウ 個人情報保護への対応

- 職員に対してeラーニングを活用して必要な研修を受講させるとともにネットワーク並びに保有情報等に対する管理を行った。

第2 主要な処理事項

年 月 日	処 理 事 項
2022. 5. 18	役員選考委員会（書面決議）
31～ 6. 1	2021年度 決算会計監査（札幌市）
6. 3	2021年度 決算監査（札幌市）
10	第1回 理事会（札幌市）
24	第1回 生乳取扱者技術認定講習会運営委員会（札幌市）
27	第48回 通常総会（札幌市）
7. 14～15	第1回 内部監査（札幌市）
28～29	検定員養成研修会（本別町）
9. 27～29	生乳取扱者技術認定講習会（Web開催）
28	北海道後代検定推進会議（書面開催）
〃	乳牛検定組合連合会会長・事務局長会議（札幌市）
28～29	第2回 内部監査（中標津町：根室事業所）
10. 6	生乳取扱者技術認定講習会効果測定（札幌市、釧路市）
13～27	地区別検定組合長協議会（全道10地区）
11. 7～ 8	第3回 内部監査（札幌市）
14～15	2022年度 上半期会計監査（札幌市）
16～17	2022年度 上半期監事監査（佐呂間町：網走事業所）
24～12. 2	地区別検定員研修会（全道9地区）
12. 13	第2回 生乳取扱者技術認定講習会運営委員会（札幌市）
15	第2回 理事会（札幌市）
2023. 2. 7～ 8	第4回 内部監査（札幌市）
2. 28	検定員中央研修会（札幌市）
3. 1	検定情報活用研修会（札幌市）
7	第3回 理事会（札幌市）
〃	道産食品独自認証制度ナチュラルチーズ専門家審査（札幌市）
9	道産食品独自認証制度ナチュラルチーズ現地審査（興部町）

第 3 総 会

年 月 日	出席会員	議 案 と 議 決 状 況
第48回通常総会 2022. 6. 27	37	<p>I. 報告事項</p> <p>1. 2021年度事業報告書について</p> <p>II. 付議事項</p> <p>1. 2021年度決算報告書（貸借対照表、正味財産増減計算書ならびに財産目録）について</p> <p>2. 2022年度会費の賦課ならびに徴収について</p> <p>3. 2022年度役員報酬について</p> <p>4. 役員を選任について</p> <p style="text-align: right;">原案どおり議決</p>

第4 理 事 会

年 月 日	主 なる 議 案 と 議 決 状 況
第 1 回 2022. 6. 10	1. 2021年度事業報告書、決算報告書（貸借対照表、正味財産増減計算書ならびに財産目録）の承認について 2. 事業所体制の検討について 3. 検定事業に係る補助事業等の実施について 4. 役員損害賠償責任保険の更新について 5. 公印の電子化について 6. 規程の一部改正について 7. 第48回通常総会の開催について <div style="text-align: right;">原案どおり議決</div>
第 2 回 2022. 12. 15	1. 検定事業に係る補助事業等の実施について 2. 2022年度収支予算（損益ベース）の補正について 3. 検査用資材価格の一部改定について 4. 規程の一部改正について <div style="text-align: right;">原案どおり議決</div>
第 3 回 2023. 3. 7	1. 2022年度資産取得資金積立額について 2. 道央事業所体制による業務開始について 3. 2023年度事業計画および収支予算（損益ベース）について 4. 規程の一部改正について 5. 役員選考委員の選任について <div style="text-align: right;">原案どおり議決</div>

第5 組 織

1 会 員

区 分	2021年度末現在	2022年度加入	2022年度脱退	2022年度末現在
一 般 会 員	34	0	0	34
会 費 会 員	3	0	0	3
特 別 会 員	7	0	0	7
合 計	44	0	0	44

(会員名簿) (順不同)

一般会員

会 員 名	会 員 名
北 海 道	上 川 乳 牛 検 定 組 合 連 合 会
一般社団法人ジェネティクス北海道	後志地区乳牛検定組合連合会
一般社団法人北海道酪農協会	道南地区乳牛検定組合連合会
北海道ホルスタイン農業協同組合	胆振乳牛検定組合連合会
公益財団法人北海道農業公社	日高乳牛検定組合連合会
サツラク農業協同組合	十勝乳牛検定組合連合会
株式会社 J H B S	釧路地区乳牛検定組合連合会
ホクレン農業協同組合連合会	根室乳牛検定組合連合会
上川生産農業協同組合連合会	網走管内乳牛検定組合連合会
釧路農業協同組合連合会	宗谷乳牛検定組合連合会
根室生産農業協同組合連合会	留萌管内乳牛検定組合連合会
十勝農業協同組合連合会	一般社団法人北海道酪農畜産協会
宗谷生産農業協同組合連合会	雪印メグミルク株式会社
日高生産農業協同組合連合会	株式会社 明 治
胆振生産農業協同組合連合会	森 永 乳 業 株 式 会 社
石狩乳牛検定協会	よつ葉乳業株式会社
空知乳牛検定組合連合会	北海道日高乳業株式会社

会費会員

会 員 名	会 員 名
北海道農業協同組合中央会	北海道農業共済組合
北海道乳質改善協議会	

特別会員

会 員 名	会 員 名
北海道乳業株式会社	タカナン乳業株式会社
北海道チクレン農業協同組合連合会	北海道保証牛乳株式会社
くみあい乳業株式会社	ラクレン農業協同組合連合会
株式会社北海道酪農公社	

2 役員

(単位：名)

区分	2021年度末現在	2022年度		2022年度末現在	摘要
		増加	減少		
理事	会長	1		1	
	副会長	2		2	
	専務理事	1		1	(常勤)
	理事	8	1	1	8
	計	12	1	1	12
監事	代表監事	1		1	
	監事	2		2	
	計	3		3	
合計	15	1	1	15	

3 職員

(単位：名)

区分	2021年度末現在	2022年度採用	2022年度退職	2022年度末現在	摘要
総合職	41	2	3	39	総合職から地域総合職への異動者1名含む
地域総合職* (一般職)	18	0	0	19	
嘱託	7	3	3	7	
合計	66	5	6	65	

※2022年度より、一般職は地域総合職へ名称変更

備考：臨時職員・パート職員24名（年度末現在）

(参考)

牛群検定事業実施状況の推移

年度	組合数	マスタ登録				加入戸数 (戸)	除籍戸数 (戸)	全道生乳出荷 戸数 (戸) (c)	農林水産統計 頭数 (頭) (d)
		戸数 (戸) (a)	普及率 (%) (a)/(c)	頭数 (頭) (b)	普及率 (%) (b)/(d)				
2013	100	4,599	73.0	349,545	74.3	54	176	6,297	470,300
2014	99	4,477	73.4	347,909	75.7	47	169	6,098	459,700
2015	98	4,383	74.0	347,363	73.8	53	182	5,920	470,900
2016	98	4,297	74.6	345,857	75.3	46	125	5,759	459,400
2017	98	4,188	74.9	346,987	75.2	44	153	5,589	461,500
2018	98	4,083	75.3	345,307	74.3	42	147	5,423	464,500
2019	98	3,982	75.6	347,321	75.5	41	142	5,264	459,800
2020	98	3,898	75.3	352,306	74.9	39	123	5,176	470,200
2021	98	3,788	75.6	354,974	73.8	42	152	5,009	480,900
2022	98	3,601	75.2	345,186	—	29	216	4,787	—

年 (1~12月)	1頭1日当 乳量 (kg)	年間乳量 1頭当 (kg)	成分率			体細胞数 (万/ml)	分娩間隔 (日)	空胎日数 (日)	1頭1日当 濃厚飼料給与 (kg)
			脂肪率 (%)	乳タンパク質率 (%)	無脂乳固形分率 (%)				
2013	28.9	9,105	4.03	3.32	8.80	21.8	432	156	10.8
2014	28.8	9,088	4.02	3.32	8.81	21.3	430	152	10.8
2015	29.4	9,306	3.96	3.32	8.80	21.1	428	151	10.9
2016	29.9	9,502	3.94	3.34	8.79	21.3	426	151	10.9
2017	29.8	9,439	3.95	3.35	8.81	20.8	426	153	11.0
2018	30.4	9,626	3.95	3.34	8.80	20.8	426	151	10.8
2019	30.8	9,734	3.96	3.34	8.81	20.3	425	150	10.8
2020	31.0	9,878	3.96	3.35	8.82	20.3	425	149	10.8
2021	31.2	9,933	3.98	3.37	8.84	20.0	422	147	10.9
2022	31.6	10,025	4.03	3.39	8.86	19.2	420	143	10.9

生乳検査成績の推移（合乳）

年度	成分率			細菌数 1万/ml以下 比率 (%)	体細胞数	
	脂肪率 (%)	無脂乳固形分率 (%)	全固形分率 (%)		20万/ml以下 比率 (%)	30万/ml以下 比率 (%)
2013	3.933	8.771	12.704	98.7	64.7	98.4
2014	3.927	8.780	12.706	98.6	68.9	98.7
2015	3.941	8.768	12.709	98.8	69.2	98.8
2016	3.958	8.769	12.728	98.6	68.6	98.5
2017	3.958	8.786	12.744	98.5	70.5	98.6
2018	3.964	8.769	12.733	98.4	72.5	98.4
2019	3.967	8.776	12.743	98.2	71.4	98.4
2020	3.976	8.783	12.759	98.0	73.3	98.6
2021	4.010	8.815	12.825	97.6	75.3	98.7
2022	4.060	8.812	12.872	97.2	76.4	98.5

2022年度 生乳検査実施状況

項	目	検体数	対前年比	備考	
				検査対象乳量	前年対比
合乳	成分・体細胞数検査	173,832件	100.3%	4,049,818,435.5kg	97.7%
	細菌数検査	72,774件	99.8%		
個乳	成分・体細胞数検査	141,236件	96.6%	2,682,320,345.5kg	97.6%
	細菌数検査	141,236件	96.6%		
個体乳検査		2,289,327件	97.7%		
付帯検査		555,367件	—%		
検査用資材の提供		108,973件	—%		